

「作ってあそぼう」

～できたことの達成感から次への探究心へ～

長野保育所（りんどう保育園）

執筆担当者：石坂由香・市川千寿子

キーワード：園と家庭との連携・共感・共有・職員間

I. はじめに

昨年度、「身近な素材を使ったあそび」をテーマに取り組み最終的に全園児で作上げる作品展「ぼくたち、わたしたちのまち」は子ども達の達成感となった。

しかし、作品展など作っての達成感で終わってしまっていた。そこで今回は、自分で作るに加えて保護者・祖父母など色々な方に協力して頂き一緒に作って遊ぶ体験を増やしたいと思った。そして、保育中だけでなく家での遊びに自分で作って遊ぶ感覚のおもしろさが加わればと思い保護者との連携を取り入れながらすすめることにした。

II. 研究の目的

継続的な作ってあそぼうの活動を子ども・保護者・保育士の変化していく様子を明らかにしていく。

III. 研究の方法

- ・アンケート調査から実態状況を把握し「作ってあそぶ」子どもの姿や保護者の関心の変化を検証する。
- ・事例研究

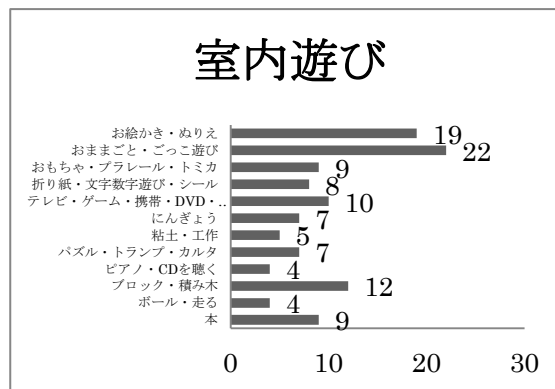
IV. 事例と考察

[事例1]

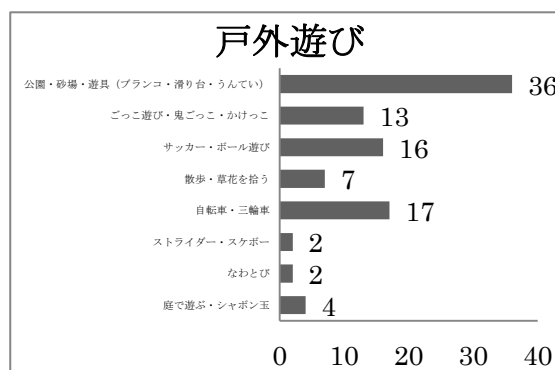
○対象児：年少児・年中児・年長児
 （年長児）Yくん母：「家にいる時は、ゲームをやる時間が多く困っている」との相談があった。

何人かの保護者からも相談があり、今回クラス別懇談会後にアンケート調査をし実態を把握することとした。（複数記入あり）

○室内では、どのような遊びをしますか？



○户外では、どのような遊びをしますか？



<考察>

アンケート結果より
室内遊びでゲーム遊びの子どもは10人。
戸外遊びではゲーム遊びをしないということがわかった。同時に家庭での遊びに自分で作って遊ぶ遊びがない事がわかった。どのようにしたら、作って遊ぶ事の楽しさや面白さを伝えられるかが、次回の課題となった。

[事例2]

○対象児：年長児

(掲示方法)

皆で共有できるように、製作の様子を文字・写真で掲示。そして、掲示板に「みんなのこえ」のコーナーを作り気軽に紙に書いてもらい一緒に掲示することとした。



4月 (双眼鏡)

春は、散歩を通して自然事象や動植物に触れ合う機会が多くなるため一層散歩が楽しめるようにと、双眼鏡に真似た物を作る事にした。材料は、身近にあるトイレットペーパーの芯・折り紙・リボン(紐)とした。

(年長児) Rさん：普段からあまり自分のことを主張しないが、この日はこれを持って早く出掛けたいと言っていた。

後日、作ったもので年少児と一緒に散歩に出掛ける。

(年少児) Mさん：入園してまだ、園生活に慣れずにいたが、年長児に双眼鏡をかしてもらい、嬉しそうに笑った。



(春の時期：4月・5月使用し持ち帰った)

<考察>

4月は新入・進級したばかりで子どもも不安だったり・緊張していたり色々な感情もっている中、製作を通して年下・年上との交流は良い結果となった。掲示板で作り方を書いたところ年少児・年中児、数人の子どもが家で作ったと次の日に持ってきた。双眼鏡遊びは、自由に取り出し遊べるように個人のロッカーに入れることで好きな時に出し、散歩の時にも自ら持っていく子もいた。保護者との共有は、うまく進まず「みんなのこえ」は、3人の感想のみで掲示板をあまり見ていない様子だった。その場でコメントを書くのに抵抗があるのかもしれないと思った。

[事例3]

○対象児：年少児・年中児・年長児

(掲示方法)

今回は、前回同様掲示の仕方は同じ方法で掲示板を目のつきやすい玄関に飾る。保護者の声をもっときこえるようにポストイトの紙を個人の帳面に貼るようにした。

6月 (時計作り)

年少児：梅雨の季節で身近に見る生き物(かたつむり)型の時計を作った。かたつむりのはじき絵を楽しみその後、数字と針に見立てたモールで時計を作った。時計について理解は出来ていないが、針を動かして遊ぶ姿が見られた。



保護者からの紙には「これを機会に時計の読み方を覚えていかれるとよい」と書かれていた。

年中児：年少児同様、形から楽しんで入れるよう「動物時計」作りをした。数字を読める子が多く、数人で集まり「数字3にしよう」と言い会話を楽しみながら時計遊びをしていた。

保護者に記入してもらった紙から時計を家でも使い「ほら、3時。おやつ時間」「ほら、9時寝る時間」と時間に関心がうまれたとの感想があった。



年長児：腕時計を作り、戸外遊びでもつけたまま遊ぶ事で本物の時計を見比べて合わせてみたり、友達と相談をしたりと普段一緒に遊ばない友達とも会話を弾ませていた。



<考察>

毎年、年齢毎に時の記念日に合わせて時計作りをしてきたが、今年は作った時計で遊ぶようにした。友達同士での会話が弾んだり、遊びの中から数字への興味へとつながりその延長で家庭に持ち帰り親子でのやり取りがポストイットの紙よりわかった。

[事例4]

○対象：年少児・年中児・年長児と祖父母
(※一世帯一人)

毎年行う祖父母交流会の行事。今までは一緒に製作のみ行う事が多かった。今年は一緒に作り遊ぶ活動内容にした。

10月 (けんだま)

祖父3人・祖母21人の参加。

祖父母と園児でけんだま作りを行う。

一緒にのりを塗ったり、笑い声が聞こえてきたりした。祖父母が参加できなかった園児は、一つのテーブルにまとも保育士と一緒にいった。子ども一人でも作れる簡単なけんだまにしたため、すぐに仕上がった。けんだまに慣れて遊ぶ事を楽しむ子もいれ

ば、難しくて「できない」という子もいた。

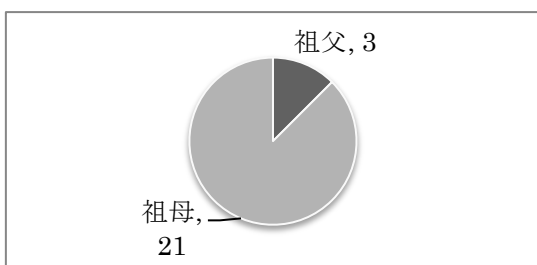


- ・作るのは楽しかったが、遊ぶのは難しかった
- ・子どもには難しいようだ
- ・カラーの貼り物が少ない
- ・ひもがもう少し長い方が良かった

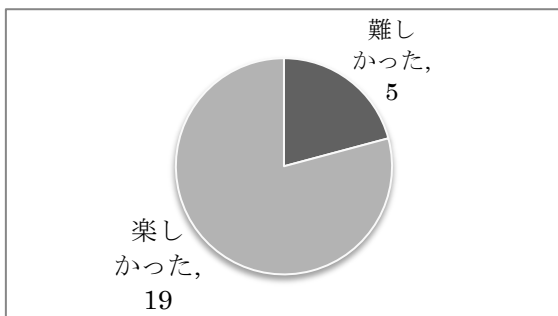


9月12日祖父母交流会 アンケート結果

○参加者 (24人出席)



○けんだまはいかがでしたか



○その他

- ・年長児にはもっと自分で作る部分があってもよかった。
- ・いつも考えられた日程になっている
- ・自分から進んで出来るものだった

<考察>

アンケート結果より楽しかったと答えた方19人。祖父母も楽しめるけんだまと設定したが器にボールが入らず難しかったと答えた方5人。今年度は、いなかったが県外からも祖父母交流会を楽しみに参加する方がいる。

来年度は、このアンケートを基に活動内容改善の参考としたい。

このように行事がある度、模造紙に写真・文字で記入したものをその日の降園までにつくり掲示をし、保護者等に知らせていた。今回は、その模造紙に「みんなのこえ」の欄をつくり、家に帰っての子どもの声を書いてもらい後日、書かれていた紙を掲示した。

紙への記入の仕方は保護者の方にお任せしている。最初、無記名でとお願いしていたが、名前を大きく書きコメントが記入されていたり、絵入りできれいに仕上げてくる方などそれぞれだった。その半面、書いてくる方はだいたい決っている。掲示され

る事で、記入しにくかったり、楽しい・嬉しい声ばかりではないと思い次回、保護者の声を聞く工夫が必要ではないかと考える。

[事例5]

○対象児：年少児・年中児・年長児

(縦割り保育 クラスの様子)

保育参観は、毎年2日間あるうちの1日のみ参観する日として選んで参加して頂いている。1日目のクラス別保育では作って遊ぶを実施内容に設定した。

11月 たんぼぼ組：スライム遊び

材料は、あらかじめ保育士が準備しておき1人1カップ使用でホウ砂水をカップに半分ほど入れた物を配布し、食紅(赤・黄・緑)好きな色を聞きながら少量カップに入れる。



(年中児)Aさん：ホウ砂水に色が付き「わーきれい」と声を出し喜ぶ

その後、洗濯のり(P・V・A入り)を少量入れかき混ぜると固まりだす。

(年長児)Hさん：「何で？」と驚く

(年少児)Tさん・(年長児) Tさん：一緒に自分達なりに「どこまで伸びるかな」と工夫して遊びだす。



ちゅうりっぷ組：こま遊び

事前に紙皿にペットボトルのキャップを固定したものを用意した親子でこまの模様を描き遊ぶという簡単な手順にした。

(年長児)Kさん：「回ると、模様が変わる」

の一声で周囲の子も、「この模様きれい」と楽しむ。

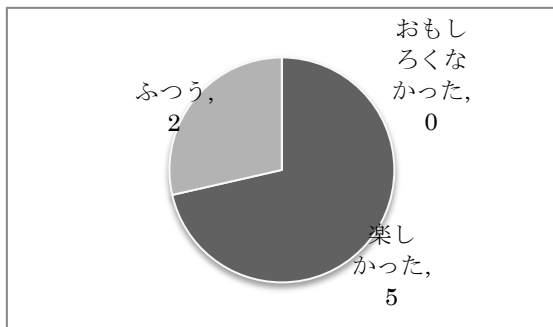


(年少児)Hさん：「どうやって色を塗ったの？」と質問したり、普段関わらないお友達とも交換してこま回しを行う。

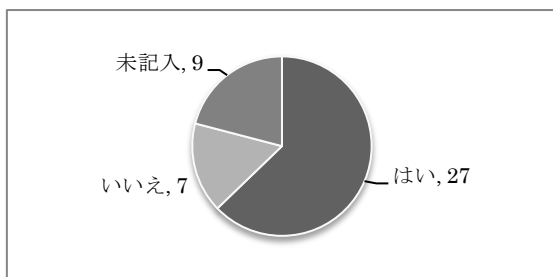


保育参観 アンケート結果

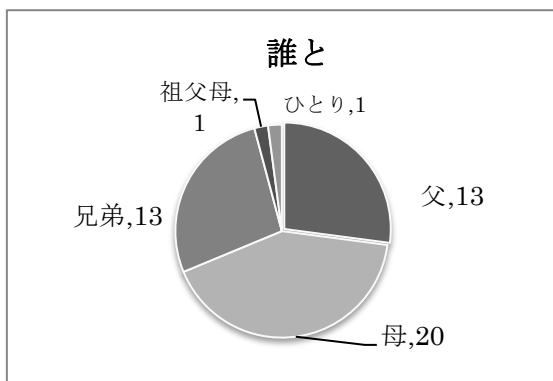
○スライム・こま遊びはいかがでしたか？
 (※保育参観1日目クラス別保育のアンケート)



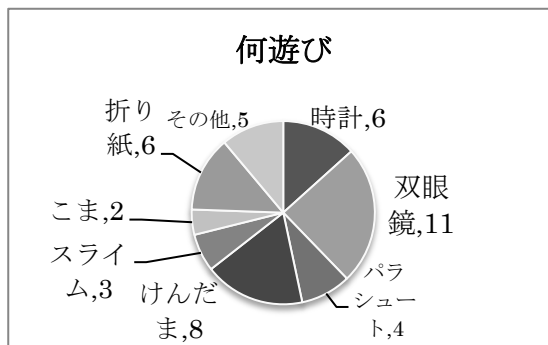
(一日目・二日目のアンケート結果より)
 ○園での遊びをお家でも作ったり・遊んでいますか？



○はいの方 誰と何遊びをするのが人気でしたか？



何遊び



○その他

- ・同じものを作ろうと材料をとって置いたりしたが、そのままになっている。
- ・何度かやってみせてくれた後、とって置いてある。

<考察>

保育参観一日目、クラス別保育の参加者希望の方が少なかったが、掲示板で作り方・遊び方を紹介したところ「作り方の資料を持ち帰り家で一緒に作ってみた」という方が何人かいた。縦割り保育での製作は、年上の子が年下の子を気に掛け優しく声を掛けたり、喧嘩が多い友達同士が「うまく仕上がったね」と喜びあい一緒に遊びだす姿があった。今回は、紙での感想だけでなく、色々な意見が聞けるようにアンケート調査も同時に行った。

家庭で遊ぶ好きな遊びの中に、作って遊ぶ楽しさも加わればと思い取組んだ。アンケート結果より園での遊びをお家でも作ったり・遊んでいますかで、「はい」と答えた方は27人。(保育参観参加保護者人数43人中) 作って遊ぶ事に少しずつ興味を持ち始めた様子である。

[事例6]

○対象児：年少児・年中児・年長児

作品展後より、園で覚えた作り方・作品展でのやり方を真似て家に持ち帰り家庭にある材料・そして園で作ったものを混ぜて一つの作品にして持ってくるようになる。



作品展テーマ(宇宙)後、年長児との会話

Tくん：「エンダーマンって言ってねゲームの世界の人なだけけど知ってる？ちょっと、宇宙人にも似ているでしょ」

保育士：「エンダーマンわからなくてごめんね。うんうん、似ているね」

Tくん：「どうやって作ったかわかる？」

保育士：「箱と紙とセロテープを使って作ったんだね。このエンダーマン皆に見せてもいいかな？」

Tくん：「うん、いいよ でもどうやって」

保育士：「てぐすを使って廊下に飾ろうかと思うんだけど」

Tくん：「先生いいねーそうすれば動かせるもんね」

Yくん：その作品に興味があり「どうやって作ったの？」と熱心に聞いていた。次の日

Yくん：「先生ぼくも、作ったよ」と嬉しそうに持ってくる。

「先生、ぼくロボットを作ったんだけど自分で作るのって楽しいね」

<考察>

T くんから始まった「お家でも作って遊んだよ」は、作ることの楽しさを周囲に伝える良い影響となった。Y くんは、作ることの楽しさを感じ、ロケット・ラジコンと何作品も作り持ってくるようになった。Y くんはゲーム遊びが大好きだった。その後、作って遊ぶ事が増え家庭での遊びに変化があったかどうか保護者に聞いたところ「先生、ゲームの時間が減って、作ることに夢中で材料ないの？と言われてしまうぐらいで、作って遊ぶっていいですね。」と嬉しそうに話した。(作ってあそぼう)の掲示の名前を子どもから出た「お家でも作って遊んだよ」にかえて作品を飾るコーナーとした。



また、クリスマスが近づきトナカイの折り方を園で覚え、それを家に持ち帰りダンボールで家・庭を作りアレンジし園に持ってきて皆で相談し再び製作を楽しんでいた。楽しさが「一人で」から「皆で」に変わってきた瞬間だった。





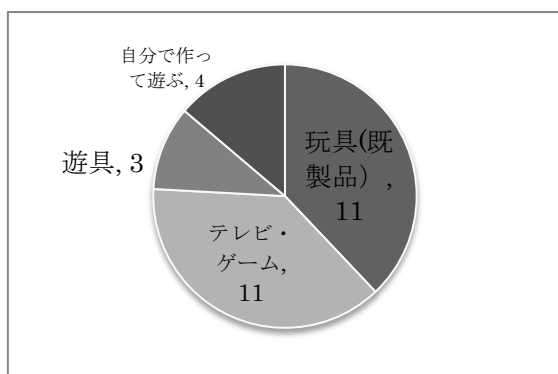
[事例 7]

2月

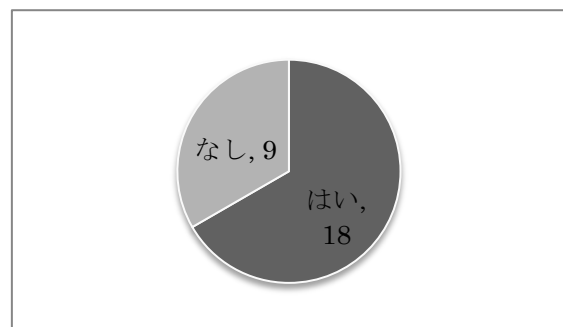
○保護者・職員

保護者へのアンケート・ポストイット調査を行い、職員全員に今後の環境作り・今後の取り組みについて話し合った。

○好きな遊び



○「作ってあそぼう」の活動によりお子様の変化はありましたか？



「はい」 どんな事ですか？

年少児の保護者

- ・自分で折り紙を折るようになった
- ・家でも積極的に作るようになった
- ・想像力や作ってみようとする気持ちがつ

いてきたと思う

- ・兄が作っていてもほぼ興味がなかった

年中児の保護者

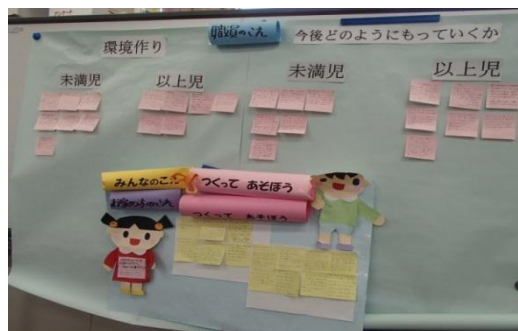
- ・家でも作りたがり折り紙・はさみ等自分から使うことが増えた
- ・作ることを楽しんだり、嬉しそうに見せることが増えた
- ・家にあるいらぬ物で、考えて作り遊んでいる
- ・イメージーションが豊富になった

年長児の保護者

- ・空き容器等で工作することが前より好きになった
- ・毎日何か作り、保育園に持っていきことが嬉しそう
- ・集中して長い時間作れるようになり、細かい部分も自分でやるようになった
- ・家で作ったり、それで遊ぶ事が増えた
- ・今まで一人で作ることがなかったが必要な物を集め自分で考えて作っている姿を見て成長に驚いた

○保護者のアンケート結果を見て職員で今後の環境作り・今後どのようにもっていくのかについて話し合う。

(その1) 以上児クラス・未満児クラスの職員に分かれて紙に記入し一枚の模造紙に貼る。



(その2) その後、以上児クラス・未満児クラスに分かれて職員で話し合い同じ様な

内容の区分に分けペンで囲む。



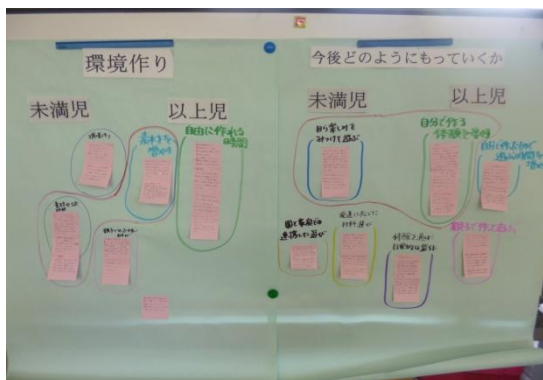
★環境作り

未満児クラスで出た内容

- 環境作り
- 素材（材料）の工夫
- 親子でのふれあい遊び

以上児クラスで出た内容

- 素材を増やす
- 自由に作れる時間を増やす



（その3）未満児クラス・以上児クラスで共通した内容を更に大きく囲む事で環境作りの見直し部分が現れる。

共通点：素材を増やした環境設定にする

★今後どのようにもっていくのか

未満児クラスで出た内容

- 自ら楽しみをみつけて遊ぶ
- 園と家庭での連携した遊び
- 発達に応じた素材遊び

以上児クラスで出た内容

- 自分で作る経験を増やす

- 自分で作った物で遊ぶ時間を増やす

- 親子で作って遊ぶ

共通点：今後、自分で作る経験を増やす

<考察>

紙を利用して全職員での今後の持っていく方について記入し模造紙にまとめた事で今後の内容がはっきりとした。

[事例8]

○対象児：以上児クラス（縦割り保育）

素材を自分で選び遊ぶ

Rくん：「先生、ぼくも作りたい」と年少児。今まで全く興味がなく兄が家で作っていても興味もないとの事だったが自分で考えることの楽しさを見つけた様子。



（年長児）Tくん：「掃除機作ったんだけれどもーんどうやればゴミがくっつくのかな」としばらく考えガムテープを裏返しにしゴミがくっつくようにしていた。



(年長児) Aさん:「お家でお父さんと作ったの」と言い靴とランドセルをもってきた。「ひとりで」や「お母さんと一緒」が多かった作品が「お父さんと」の交流も出てくるようになった。



<考察>

素材を増やした事で想像して作る内容が以前に比べて本格的になってきた。そして、設定保育以外での自由時間に「作ってあそぼう」の時間を増やす事で作って遊ぶことを楽しみに登園してくる子どもが増えた。想像を膨らませることで集中して取り組む姿がみられるようになった子どももいる。

V.まとめ

今回、作ったもので遊ぶ事・そして子ども達の好きな遊びの中に買った玩具だけでなく作って遊ぶ遊びが加わればと思い活動内容を考え取り組んできた。

友達・親子・祖父母と作って遊ぶ体験を増やす事で作って遊ぶ事に楽しさを感じる子どもが増えてきた。まだ、自分から作って遊ぶことに興味をもてない子どももいるが、年少児が少しずつ興味を持ち始めたり、保護者の感想より「作ってあそぼう」の取り組みにより子ども達の姿に変化が見られ、「以前に比べ想像が豊かになった」「集中し

て遊ぶ」等好評なコメントがあった。

また、掲示板での保護者とのやり取りで園・家庭での様子が分かり良かった面があった。そして、保育士の間でもこれからの環境作り・時間設定と考え直す良い機会となった。

保育は、保育士同士の連携と家庭との連携が重要となるため互いに共有できる工夫が必要だと言うことを改めて感じた。

○今後の課題

- ・「作ってあそぼう」の取り組みについてはまだ知らない家庭もあるようだ。この取り組みが皆で共有できるようにこれからも工夫をしていきたい。
- ・職員間で出た内容で素材を増やした環境の中で自分で作る経験を増やしていきたい。

【参考文献】

- ・ 宍戸健夫
『あそびを育てる (保育のとびら (4))』
日本書籍 (1985)
- ・ 中山隼雄科学技術文化財団
子どもと遊び研究会
『遊びが育てる 子どもの心』
PHP 研究所 (1996)
- ・ 花篤 実『造形表現』三晃書房 (1994)